

『不整脈判読トレーニング』

第1刷(2001年3月1日発行)～第10刷(2012年12月15日発行) 正誤表

2013年11月1日作成

訂正箇所	誤	正
8頁【解説】(メモ)6行目	これはほとんどのPACでは正常リズムと経路を通るからである。	これはほとんどのPACでは正常リズムと 同じ 経路を通るからである。
10頁【解説】2行目	～までの時間(間隔)であるPR間隔の初期には	～までの時間(間隔)である。PR間隔の初期には
10頁【解説】5行目	～十分な時間を与えているPR間隔の大部分の時間は	～十分な時間を与えている。PR間隔の大部分の時間は
15頁【解答】図D	rSR	rSR'
16頁【解説】(メモ)1行目	上図はqR群、 QRS 群、rS群を示している。	上図はqR群、 qRs 群、rS群を示している。
20頁【解答】4行目	41 頁の例題での心拍数は	上 の例題での心拍数は
21頁(ヒント)1行目	41 頁のR-R間隔の2倍である	20 頁のR-R間隔の2倍である
25頁【解答】「リズムB」の2行目	もし6つであれば心拍数は 75 拍/分(300÷6)である。	もし6つであれば心拍数は 50 拍/分(300÷6)である。
46頁 上段および下段の「主な洞調律」	2)洞 除 脈	2)洞 徐 脈
61頁【解答】「心房粗動に対する(心室応答)」の5行目	上図のように房室伝導比が変化する 心房細動 がしばしばみられる。	上図のように房室伝導比が変化する 心房粗動 がしばしばみられる。
81頁 図A	上室性 期外収縮	心室性 期外収縮
89頁【判読】11行目	前頁 の定義により	上記 の定義により
90頁(臨床メモ)3行目	依然 考えられていたほど	以前 考えられていたほど
96頁 7行目	4)変行伝導を伴う上 拍 性頻拍	4)変行伝導を伴う上 室 性頻拍
112頁(コメント)1～2行目	心房の活動は伴っていない心拍数は遅く	心房の活動は伴っていない。心拍数は遅く
120頁(臨床メモ)3行目	(65～68 頁参照)	(66～67 頁参照)
132頁(メモ)5行目	105頁の 注意 参照	105頁の メモ 参照
135頁(キーポイント)7行目	132 頁のように	134 頁のように
140頁 心電図	伝達されない P波	伝導されない P波
143頁 ラダーグラム	心房 房室結節 心房	心房 房室結節 心室
151頁【解答】下から2行目	238 頁に示された伝導障害は	上図 に示された伝導障害は
163頁【解説】2行目	(57～60 頁参照)	(28～29 頁参照)
163頁【解説】下から1行目	心室期外収縮の多発	心室 性 期外収縮の多発
173頁 1行目	161 頁で示された	171 頁で示された
177頁【解答】8行目	174 頁で早期刺激B	176 頁で早期刺激B
197頁 1～2行目	心拍数は140拍/分であるPR間隔は	心拍数は140拍/分である。PR間隔は